

様式第 1 号（第 3 条関係）

【健康あだち 2 1 専門部会】会議概要

会 議 名	令和 7 年度 第 1 回 健康あだち 2 1 専門部会
事 務 局	衛生部こころとからだの健康づくり課
開催年月日	令和 7 年 7 月 2 4 日（木）
開 催 時 間	午後 1 時 3 0 分 ～ 午後 2 時 3 0 分
開 催 場 所	すこやかプラザあだち 大研修室N
出 席 者	別紙名簿の内、 1 4 名
欠 席 者	3 名
会 議 次 第	別紙のとおり
資 料	令和 7 年度第 1 回健康あだち 2 1 専門部会 報告資料

様式第2号（第3条関係）

（審議経過）

土井課長より、資料1に沿って説明

高橋課長より、資料2に沿って説明

（倉田）虫歯の予防効果についてだが、3歳は乳歯の歯列が確立し、成熟を迎え虫歯になりにくくなる。最近は診療所で高濃度のフッ素を塗るよりも、日常的にフッ素入りの歯磨き剤や歯磨剤を使用すること、それに加えてオフィスでのフッ素塗布により、相当の虫歯予防効果がある。ただ、事業として行くと、年齢や回数を区切る必要があり、6歳臼歯が生えてきた頃が適していると考え。意識が高い親御さんの元で育ったお子さんの口の中は、すでに予防処置がされている。健診があるからフッ素を塗れると言っても、意識の高い方はできても、意識の低い方はその健診すら受けないという人もいる。今年度からは、健診で歯ブラシをいただけるとのことで、これで少し数字が上がるかなと考えている。

6歳になると、6歳臼歯も生えてくるが、同時に前歯も生え替わる時期である。乳歯の歯根が吸収されて、動揺して抜け替わる際に位置がずれたりすると汚れがたまりやすく、虫歯になりやすい。何もしなくても、歯磨きをしっかり行い予防処置をしていけば、自然に歯は成熟し、年数とともに虫歯にはなりにくくなる。評価の対象として、幼稚園から小学校1年生までは追わざるを得ないが、もう少し先まで追えればさらに虫歯が増えると思う。そういう意味でも、6歳での予防は重要だと考えている。

（高橋）昨年のフッ素塗布事業では6歳児に対し歯ブラシ持参を依頼していたが、今年は歯ブラシをプレゼントして受診率を上げたいと考えている。また、対象年齢の拡大も現在検討中である。

（藤原）区立保育園での給食後の歯磨きの

際には、歯磨き粉にフッ素は入っているのか。使わないという話もあったと思うが。

（馬場）家庭で用意したものでやっている。おそろく一律ではない。

（豊川）歯の状況は、他の自治体もそうだが、23区全体と比べると悪い。歯の健康は社会経済格差に一番影響してくるため、なかなか改善が難しいと思うが、地域別に見ても差が出ているのか、それともあまり地域差はないのか。

（高橋）地域差はある。

（豊川）であれば、健康日本21や健康格差対策縮小のターゲットがあるのならば、足立区から率先して格差対策に取り組むことをアピールしていくのも良いかと思う。

（西方）私は82歳だが、まだ自分の歯が全て残っている。歯磨きも大切だが、やはりカルシウム、骨を作る体の内側からのケアが重要だと思う。食べるものもそうだが、野菜だけでなく、小魚や牛乳なども大事。私はそれを実行してきたから、今でも奥歯まで全て残っている。

（藤原）それに歯磨きもしているのか。

（西方）歯磨きは夜1回だけ。昔は歯が減るからあまり磨くなと言われていて、歯が痛くなったりすることはあまりなかった。とにかく体の中からカルシウムを摂って骨を丈夫にしないといけないと思う。でも、野菜も大事である。

（馬場）特に幼少期にはおやつも大事ということで、啓発資料を作成し、3歳児健診や保育園・幼稚園の教育で保護者向けに配布している。うちわも作り、磨くだけでなく生活習慣が大事という点を私たちも重視していきたい。

（藤原）子供の食事を評価するのは非常に難しい。カルシウムを摂ろうという様々なキャンペーンがあるが、実際にどれくらい

摂取できているかを見るのは困難である。学校の先生方が親御さんに聞かれることの一つに、「どうやったら背が伸びるか」という話がある。それをうまく利用してカルシウムにつなげるという戦略が、いつかの段階にあると考えている。

（政田）小学6年生あるいは中学1年生の子供たちの虫歯が改善されたというのは読み取れたが、例えば、以前学んだ中で生活困窮者の子供は虫歯が多いと記載する資料を見たことがある。今回、未就学児の子供たちにも教育はされているが、例えば家庭にいた高学年の子供たちであれば親と話をしたり、あるいは学んだことを自分で家でできるのかもしれないが、未就学児や小学1年生ぐらいの子どもだと、家に帰って忘れてしまう、あるいは生活困窮の家庭だと、家の中がバタバタしていてなかなか親とそういう話をする機会がないと思ったが、その辺のフォローについてどういう感じか伺いたい。

（高橋）19ページにも関連資料を掲載しているが、ご指摘のとおり生活困窮世帯と虫歯は相関関係にあることが確認できる。令和7年度の主な取り組みとしても、小学校1年生については、確かに理解はなかなか難しいかもしれないが、朝夜の歯磨きとおやつというテーマに子供が興味を持って取り組めるよう、動画や工夫された教材で、子供が楽しみながら取り組むことを進めている。

（藤原）生活困難層へのアプローチは、恐らく構造的にやらないと難しく、水道にフッ素を入れるといったことをやらないと難しいということはもう分かっている。個別のアプローチにもやはり限界があるが、今の段階では個別のアプローチしかないの、それを最大限でやっていると理解して

いる。全体として虫歯は減ってきているので、生活困難層の虫歯も同様に減っているのは事実である。これが社会全体の影響を受けていると理解していただくと良いと思う。

土井課長より、資料3、4、5に沿って説明

（藤原）友愛クラブはそういったネットワークで自殺の相談を受けたりしているか。

（加藤）友愛クラブ連合会は老人クラブであり、相談については普段の活動とは異なる。

（藤原）ネットワークがあると自殺予防に繋がるということは言われている。人が集まり話することができる場があることは非常に大事なことだ。

（加藤）老人クラブという名称が良くないということで、令和5年度に友愛クラブ連合会という名称に変わった。連合会の会員は、すこぶる元気いっぱい、80代の方も活動している。最近は今までのことよりも、もっと子供たちとも一緒に楽しめればというような気運も出てきているので、昔やっていたこと（例えば昔の遊びや伝承）も子供たちと一緒に触れ合おうという傾向を作っていきたいと思っている。質問の件とは少し異なるが、そのような活動をしている。

（藤原）29ページのデータで気になったのだが、10代の女性の自殺が、コロナ禍で増加し、今落ち着いてきていたと思っていたら、また増えているのは何故か。50代男性もそうだが、20代男性も増えている。働く男性の話と、この2つが気になったのだが、何かコメントできる範囲で情報はあるか。

（土井）10代の女性に関しては、コロナ禍の令和2年に急増した。特に女子中高生が

そこで増えている。急増に伴って増加した自殺の原因動機を見ると、不明なケースもあるが、女子中学生は家族関係の問題や不登校、女子高校生は病気の悩み（うつ病など）やその他の精神疾患が挙げられている。それが増えたから直接的だとは言えないかもしれないが、増加の原因としてそれが挙げられている。小中高生の自殺が増えているというところでは、亡くなる直前まで普通に通学していたというケースもたくさんあるので、そこはなかなか判別しきれないところがあると思う。しかし、事業として行っている教員研修やSOSの出し方教育を実施し、子供たちの異変をキャッチできるような体制づくりが重要だと考えている。20代の男性が増えているところは申し訳ないが、把握できていない。しかし、理由としては健康問題が全体的な原因となっているので、精神疾患のところなどが関連しているのではないかと考えている。

松本課長より、資料5、6に沿って説明

（山下）給食について質問したい。足立区の「コシヒカリの日」に、数年前、学校医として関わらせてもらったことがある。大変美味しくいただいたが、ただ、普段何を食べているのかと聞かれると、ササニシキを食べている。今年のコメに関する話題だが、今年の米不足は給食に影響したのかどうか教えていただきたい。

また、今年度のコシヒカリの日、小松菜の日がいつなのか教えてほしい。

あと1点、今回は資料になかったが、43ページの朝食を欠食する児童について、15%の子供が食べないとあるが、これはなかなか難しい問題だと思う。例えば、家庭自体が朝食を準備しない、親も食べない、子供の頃から食べなかったといった状況で、朝食

を食べさせろと言っても難しいだろう。しかし、実際には学校で集中力が続かなかったり、勉強に集中できていない子供たちもいると聞いている。この朝食の欠食に対して、何か対策はあるのか教えていただきたい。

（松本）まず1点目、米の物価高騰で影響があったかどうかについてだが、昨年度は1キロ700円送料込みで魚沼市にお願いしており、およそ5キロ3,500円と、かなり安価な手段で対応していただいていた。しかし、給食自体はやはり物価高騰の影響を受け、昨年10月に補正予算を組んで対応した。それでもまだ米の価格上昇は止まらず、今年4月にはさらに大幅に値上げがあり、プラス3億円の補正予算を組んで対応している状況である。米以外のものも値上がりしているので、今回の前半については業者の方々にかなり頑張ってもらっており、今のところ黒字でどこの学校も運営できているという認識がある。今後も随時対応していきたいと考えている。

2点目、イベントについてだが、小松菜給食の日など学校によって実施日が異なる。大まかな日付は40ページにもあるが、例えば「魚沼産コシヒカリ給食の日」は10月、「小松菜給食の日」は11月に実施する。詳しい日付が分かり次第、周知させていただく。

3点目の朝食欠食児童への対応についてだが、朝食欠食の児童に対応できるよう、学校に配布する予算として、おにぎりやパンなどを購入して配れるよう、校長先生たちに予算を配布する形で対応している。これは子供の貧困対策の一環でもある。

（網野）欠食児童への対策の一つとして、「あだち食のスタンダード」と称して、家庭環境が複雑でご飯を食べづらい子供たち

でも、自分たちで簡単な朝食程度は作れる力を身につけ、自分たちでなんとかその環境を変えていくというところを身につけてもらうということで、家庭科の先生たちとコラボして取り組んでいるところである。

（藤原）校長先生がおにぎりなどを購入する予算の配布はどのくらい実施されているのか。

（松本）正確な数字は持っていないが、多い学校では数人分の購入をして対応しているという話は聞いたことがある。全ての学校でやっているわけではなく、やはりそういう気になる子供がいる学校で対応されている。

（藤原）入谷小では月に1回朝ご飯を調理する取り組みもやっている。

（笠原）月に1回しかやっていないが、今年度からは、全校生徒90人ぐらいの皆さんに声をかけて実施している。何回か行ったが、40名ほどの園児に参加いただいている。私がそれをやってよかったと思うのは、ちょうど自殺のことなども話題になったが、出来上がったものを先生方と一緒に食べることである。それは担任の先生ではなく、どの先生になるか分からなく、その先生方と一緒に食べている姿がとても良い。子供たちが何か悩みがあった時にも相談できるような体制にもなっていくのではないかなと思う。それがとても良いことだと考えている。

（藤原）このような朝ご飯の取り組みも、どのような効果があるのか調査をさせていただいている。ご飯は美味しかった。

（豊川）毎月何日など決まっているのか。

（笠原）決まってはいない。今度は9月の18日か19日だったと思う。

（豊川）私のイメージだと、生活保護を受けている人たちは月末が苦しくなるので、

月末あたりに提供するのが効果的かもしれない。

（笠原）最初は貧困家庭を対象にしていたが、いじめに発展する可能性もあり、やめることになった。以前は2回やっていたが、今は1回。ぜひ食べに来てほしい。

（豊川）この45ページの中のグラフが毎回気になっている。これを見ると、例えばヘモグロビンA1cで要検査になった人と思ってしまうのだが、実際には43ページの説明に書いてある通り、前年度の健診で悪くなった人のみをフォローで調べたらこういう数値だったということだ。ここから読み取れる情報は少ない。できれば、例えば中学2年生の時の所見に比べて良くなったのか、変わらなかったのか、悪くなったのか、といった形の帯グラフにしてもらった方がいいと思う。

（松本）改善させていただく。

（倉田）このアンケート結果を見ると、朝食を欠食している児童が結構多いが、これと一緒に、歯磨きをしているかどうかも入れていただくと、かなり関連性が出てくるのではないかなと思う。ご飯を食べるのも歯を磨くのも、顔を洗うのも生活習慣の一つだ。それを比較することによって、何らかの対策が生まれると思うので、要望としてお伝えする。

（松本）確認させていただく。